

平成27年度

教育に関する事務の管理及び  
執行の状況の点検及び評価  
報告書

台東区教育委員会

## 目 次

---

1	根拠法令	1
2	点検及び評価	2
3	教育施策評価の方法	3
4	教育施策評価の結果	4
	< 学びのキャンパス台東アクションプラン >	
	・ 教員・保育士の資質・能力の向上と教員が子供に向き合う環境づくりの 推進	5
	・ 自律的な学校園経営の実現	11
	< 生涯学習推進プラン >	
	・ 伝統・文化を継承・発展させる	17
	・ 健康的な生活の実現と生涯スポーツを实践する	23
5	学識経験者による意見	29
6	教育委員会の活動状況	40
7	参考資料	42
	・ 「学びのキャンパス台東アクションプラン」及び「生涯学習推進プラン」の位置づけ	
	・ 台東区教育大綱	
	・ 教育目標	

## 1 根拠法令

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、平成20年4月からすべての教育委員会は、毎年、事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされています。

台東区教育委員会では、平成20年度から主要な施策や事務事業の取り組み状況について点検及び評価を毎年実施しており、今般平成27年度の点検及び評価の実施結果を報告書にまとめました。

### 【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検及び評価

### (1) 実施方法

平成27年度の「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」については、教育委員会が実施した教育施策評価を活用し、教育振興のための施策に関する基本的な計画として位置づけられている「学びのキャンパス台東アクションプラン」及び「生涯学習推進プラン」を対象として実施しました。

### (2) 点検及び評価の対象

「学びのキャンパス台東アクションプラン」

4つの【施策目標】の中から「施策目標3 多様な学習機会と学びの環境の充実を図る」、「施策目標4 絆づくりと活力ある学校園共同社会を創造する」の2つを選択し、さらに各施策目標中の【施策の方向】を1つずつ選択して、平成26年度中に取り組んだ事務事業について点検及び評価を行いました。

「施策の方向： 教員・保育士の資質・能力の向上と教員が子供に向き合う環境づくりの推進」

「施策の方向： 自律的な学校園経営の実現」

「台東区生涯学習推進プラン」

6つの【施策の目標】の中から2つを選択し、平成26年度中に取り組んだ事務事業について点検及び評価を行いました。

「施策の目標： 伝統・文化を継承・発展させる」

「施策の目標： 健康的な生活の実現と生涯スポーツを实践する」

### (3) 学識経験を有する者の知見の活用

点検及び評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方のご意見をお聞きする機会を設け、様々なご意見、ご助言をいただきました。

学識経験者

氏名	所属等
尾木 和英	東京女子体育大学名誉教授
前田 烈	大智学園高等学校顧問
有村 久春	東京聖栄大学教授

### 3 教育施策評価の方法

#### (1) 教育施策評価シート

台東区教育委員会が実施している施策を定期的に客観的な基準で採点し、評価するために、教育施策評価シートを用いています。それぞれの施策について、実績の推移、費用対効果、組織・人員の3つの視点と総合評価から課題等を抽出し、改善の方向性をまとめました。

#### (2) 教育施策評価シートの構成

##### 施策名

今年度の点検及び評価の対象となった【施策の方向】及び【施策の目標】を記載しています。

##### 現状と課題

【施策の方向】及び【施策の目標】における現状と課題について、平成26年度末時点で記載しています。

##### 基本的な考え方と施策の方向

【施策の方向】及び【施策の目標】の基本的な考え方と具体的な取り組みについて記載しています。

##### 施策の執行状況

【施策の方向】及び【施策の目標】の執行状況（進捗度）について、簡潔に記載しています。

##### 〔施策〕

- ・【施策の方向】及び【施策の目標】の中で、構成する主要な施策事業を記載しています。

##### 〔事業名〕

- ・主な事務事業を記載しています。

##### 〔指標・計画目標〕

- ・事業の実施による効果が客観的に数値等で測定できるよう項目を設定し記載しています。

##### 〔事業実績〕

- ・指標・計画目標に対する各年度の実績を記載しています。

##### 事業に係る事務事業コスト

##### 〔事業名称〕

- ・【施策の方向】及び【施策の目標】に係るものの中で、台東区で実施した事務事業コストを記載しています。

##### 〔26年度決算額〕

- ・ 26年度決算額を記載しています。

〔26年度事務事業コスト〕

- ・ 26年度事務事業コストを記載しています。

#### 執行状況の評価

【施策の方向】及び【施策の目標】の平成26年度の実績や現在の状況を踏まえて、実績、効率性やコスト、組織・人員の各視点から、評価を行ない、施策の円滑な実施のために必要な課題等を記載しています。

#### 総合評価

「執行状況の評価」での各視点からの評価を踏まえて、実施状況の評価について総合的に記載しています。

#### 今後の方向性

執行状況の検証、総合評価を踏まえ、教育委員会として取るべき今後の対応及び改善策を記載しています。

### (3) 主な事業の取り組み

教育施策評価シートにまとめた施策のうち、主な事業の取り組みについて、現状や課題、今後の取り組み等を具体的にまとめました。教育施策評価シートに加え、施策の中心となる個別事業の評価として掲載しています。

## 4 教育施策評価の結果

施策評価（シート）の結果につきましては、次（頁以降）のとおりです。

## 平成27年度 教育施策評価シート

<b>施 策 名</b>	<b>教員・保育士の資質・能力の向上と教員が子供に向き合う環境づくりの推進</b>
--------------	---

### 1．現状と課題 (平成26年度末)

**【現状】**  
 教員・保育士にとって、子供たちの思考力・判断力・表現力などを育成する実践的指導力を有すること、困難な課題に同僚と連携し、地域と連携して対応することなど、期待される資質・能力が多様化していることから、様々な教育課題へ対応する高い実践力や応用力を身に付けた教員・保育士の育成が求められている。  
 教育委員会では、学校園の教育・保育の充実のため、地域ボランティアのサポート体制の整備や大学等との連携の推進を含めて、学校園への人的支援を充実させるとともに、教員・保育士が働きやすい環境づくりの構築を進めている。また、教員・保育士の資質向上のための研修体制の充実やワーク・ライフ・バランス、メンタルヘルスの問題への対応など、様々な教員・保育士に対する支援の取組みを進めている。  
 (1) 教員・保育士の資質・能力の向上  
 資質向上のための研修体制については、経験年数や職層・校種・学校園での役割、教員・保育士のニーズに応じたきめ細かな研修会を実施するとともに、それぞれの研修内容については所属ごとのOJTに関連付けることができるよう改善を図っている。また、優れた教育活動を実践している教員・保育士に対する奨励を行い、教員・保育士の意欲の向上を図るとともに、当該教員による公開授業等を実施することにより、他の教員の指導力向上も目指している。  
 (2) 教職員への支援体制の充実  
 ワーク・ライフ・バランスへの対応については、教職員用校務パソコンを整備し、校務事務支援システムを構築することで、校務事務の効率性を高めるとともに教員が子供と向き合う時間を増やしている。メンタルヘルスの問題については、若手教員を対象にアドバイザーによる学校園への訪問や面談等を実施することで、個々の教員の課題解決に向けた支援を行っている。

**【課題】**  
 教員・保育士の資質・能力の向上を図るためには、学校園現場において多様化・複雑化する諸課題を詳細にかつ的確に把握し、地域や関係諸機関と緊密に連携しながら解決を図ることが必要とされる。このため、教員に求められる4つの力(学習指導力、生活指導力・進路指導力、外部との連携・折衝力、学校運営力・組織貢献力)をより意図的・計画的に身に付けさせる人材育成システムや研修体系を構築することが重要となる。  
 また、教員が子供に向き合う環境づくりを推進していくためには、教職員用校務パソコンの更なる効果的な活用に加え、学校園の組織改革や会議の在り方の見直し等により校務事務の効率性をさらに高め、教員の多忙感の縮小や子供と向き合える時間の増加を目指していく。

### 2．基本的な考え方と施策の方向

- (1) 教員・保育士の資質・能力の向上  
 職層や経験に応じた研修や校務分掌ごとの研修などを開催し、教員・保育士の資質・能力の向上に努め、指導力のある教員・保育士の養成を進める
- (2) 教職員への支援体制の充実  
 すべての教員・保育士が自己研鑽に努め、優れた実践を展開できるよう、研究資料の提供やコンサルタントサービスなどの支援体制の充実を図る

### 3．施策の執行状況

施 策	事 業 名	指 標 ・ 計 画 目 標	事 業 実 績		
			24年度	25年度	26年度
教員・保育士の資質・能力の向上	スーパーティーチャーの育成	実施 各学校園より1名参加	-	51名	42名
	教員教育研究制度	3年間で全校園1回対象 各学校園より1名参加	26名	13名	13名
	ちいさな芽実践推進訪問	区立幼稚園・保育園・こども園・小学校への訪問	23園 10校	23園 10校	23園 9校
	幼児教育専門研修	研修実施 年5回	年5回	年5回	年9回
	救命法講習会	全教職員の3分の1受講	141名	139名	128名
	学校図書館担当教諭及び司書教諭の研修の充実	研修会実施 年2回	年2回	年2回	年2回
	台東区教育委員会優秀教員奨励	個人:5人 団体:2団体	個人:4人 団体:1団体	個人:2人 団体:2団体	個人:5人 団体:1団体
教職員への支援体制の充実	教職員の校務パソコン整備	小中学校教職員へ一人一台のパソコン整備	644台	642台	716台
	研修支援デリバリーサービス	実施	実施	実施	-
	授業資料データサービス	実施	実施	実施	実施
	保護者対応への通訳派遣	実施	派遣0回	派遣5回	派遣5回
	初任者アドバイザーの学校訪問	年間 5.5回	3回	4回	4.5回
	幼稚園・こども園1・2・3年目教員アドバイザー派遣	実施	対象8名 24回	対象12名 32回	対象12名 11回

#### 4. 事業に係る事務事業コスト

事業名称	26年度 決算額 (千円)	26年度 事務事業 コスト (千円)	26年度 事務事業 コスト割合 (%)
スーパーティーチャーの育成	779	4,605	2.1%
教員教育研究制度(教職員研修)	3,189	4,209	1.9%
学校図書館担当教諭及び司書教諭の研修の充実(教職員研修)			
ちいさな芽実践推進訪問(学校園経営・研修支援)	3,932	10,931	5.0%
研修支援デリバリーサービス(学校園経営・研修支援)			
台東区教育委員会優秀教員奨励	84	169	0.1%
教職員の校務パソコン整備	113,780	119,560	55.0%
保護者対応への通訳派遣(教育支援館運営)	67,794	77,796	35.8%
	189,558	217,270	100%

#### 5. 執行状況の評価

評価の視点	評価	課題等
事務事業の実績は順調に推移しているか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	スーパーティーチャー育成講座については、受講修了者が学校園内の研修はもとより、区主催の若手教員研修や教育研究会での講師を務めるなど、区全体の教員・保育士の指導力向上に寄与している。
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	ちいさな芽実践推進訪問については、学校園ごとに訪問希望日の調査を行い、指導体制を編成する等効率的な事業運営に努めた。
事務事業の執行体制上(組織・人員)の課題は無いか。	B A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	幼児教育に関する研修や学校園への訪問事業については、退職校長が研修支援専門員として担当しており、今後の事業推進にあたっては、人材確保が課題となっている。

#### 6. 総合評価 (上記5の ~ に基づいた総合評価)

A	資質向上のための研修体制については、受講者アンケートの分析等を基に改善を重ね、学校園を取り巻く環境の変化への対応や教員の実態に応じた実践的な内容構成となっており、概ね順調に推移している。 今後も受講者にとって有意義な研修内容・形態に改善していくとともに、実施日程の設定を考慮するなど受講者ニーズに即した運営を継続していく必要がある。
A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	

#### 7. 今後の方向性

教員の人材育成では、校長・副校長や先輩からの指導に加え、教員個人の自己啓発、教員同士の相互啓発が生まれ、互いに高め合う人的環境をつくることが重要となる。教員・保育士の資質・能力の向上を図るためには、教員の向上意欲を引き出し、経験や職層に応じて身に付けるべき力を明確にし、研修体系に位置づける必要があると考える。教育委員会主催の研修についても、学校園の管理職との連携を深め、OJTと関連付けた構成となるよう検討・改善を重ねていく。

スーパーティーチャー育成講座については、教科等の指導力の高い教員・保育士を計画的に育成するため、年度ごとに受講者数を一定程度確保する必要がある。本区の教育施策の方向性や学校園のニーズを勘案するとともに、開設するコースや実施内容を見直す必要がある。また、受講者推薦に係る要件を見直し、経験は少なくとも意欲のある教員・保育士に門戸を広げられるよう検討する。

初任者アドバイザーの学校訪問については、初任者のメンタル面での課題にいち早く気づき適切な指導を行うために、適宜、学校園の訪問や面談、相談を行い、個別の状況を把握する。アドバイザーが得た情報を基に、学習指導や校務への取組み状況について指導が必要な場合は、指導主事による指導訪問も併せて実施し、管理職と連携しながら適切な指導を行う。

学校図書館担当教諭及び司書教諭の研修の充実については、子供たちの読書活動をさらに推進するよう、より実践的な研修内容となるよう改善を図る。また、学校図書館司書についても、チームティーチングによる学習指導や朝学習の時間を活用した読み聞かせ、調べ学習を支援するレファレンス等の活用場面について、研修を通じて周知を図る。

< 教員・保育士の資質・能力の向上と教員が子供に向き合う環境づくりの推進の主な事業の取り組み >

## 「スーパーティーチャーの育成」

### (1) アクションプランの記載内容

台東区の学力・体力向上施策を総合的に推進するために、教科等の指導力の高い教員を計画的に育成し、台東区の時代を担う教員を育成する。1年間の研修後、台東区スーパーティーチャーとして認定し、各学校のOJTの推進はもとより、台東区全体の教育力向上を目指す教員として研修講師等の役割を担うこと等を通して、若手教員等への波及を図る。

### (2) 取り組み状況

#### 各コースのねらい

##### ICT教育推進コース

「いつでも どこでも だれでも 簡便に」をキャッチフレーズとし、分かりやすい授業や楽しい保育を展開するためのツールとして、ICT機器を適切な場面で活用することができる教員・保育士の育成をねらいとしている。

電子黒板等の効果的な活用方法やこれからの授業・保育の在り方などを学び、ICT活用による授業・保育改善を研究する。

小・中学校においては、児童・生徒の実態に応じたデジタル教科書や教師用タブレット端末の効果的な活用事例の開発も担うことが期待される。

##### 体力と体育指導コース

子供たちが楽しみながら体を動かしたり、目標に向かって体力や技能を身に付けたりするための指導の工夫や場の設定、支援の在り方等について実践的な指導力を向上させることをねらいとしている。

子供の体力向上や発達段階を踏まえた運動などを学び、保育者・教師・親の立場における保育の在り方や、理論に基づく指導のポイント、具体的改善策等を研究する。

幼稚園・保育園・こども園においては、身近にあるものや日常生活からヒントを得ながら、「体育」につながる「運動遊び」を充実させることを通じて、運動習慣を定着させることも期待される。

### 理科指導推進コース

自然が好き、理科が好きの子供たちの育成を目指し、安全で正確な実験や観察を通して科学的思考力を育むための指導技術や知識を身に付けることをねらいとしている。

理科教育の現状を捉え、理科好きな子供を育むための指導の在り方を学び、就学前からの科学的な経験を活かしながら小中学校段階でさらに育むことができるよう、継続性のある理科教育の在り方について研究する。

指導者自身がフィールドワークや実験に取り組む経験を通じて、自然の事象・現象に関心を持ち、感じ取った楽しさや不思議さを子供たちに伝えることもねらいとする。

### 各コースの受講者数

	平成 2 5 年度	平成 2 6 年度
I C T 教育推進コース	1 4	1 6
体力と体育指導コース	2 3	2 0
理科指導推進コース	1 5	8
受講者数 合計	5 2	4 4

### 各コースの研究事例

#### I C T 教育推進コース

##### <幼稚園>

幼児の想像力を広げるための I C T 教材の活用 ( 5 歳児 )

##### <小学校>

交流活動を効果的に行うことができる I C T 機器の活用法 ( 3 学年 )

I C T 機器を活用した多様な学習・活動形態の工夫 ( 3 学年 )

##### <中学校>

生徒の学習意欲を喚起し、学習の見通しをもたせるためのタブレット型 I C T 機器の活用 ( 2 学年 )

生徒の学ぶ意欲を高めるための I C T 機器の活用法 ( 1 学年 )

## 体力と体力指導コース

### <保育園>

体を動かす楽しさを味わわせながら、体幹を鍛え、運動能力を高める幼児の工夫（4歳児）

### <小学校>

児童が「できる」という達成感をもつための基礎・基本の技能が習得できる学習指導の工夫（5学年）

友達との関わり合いの中で体を動かす楽しさや心地よさを味わわせる指導の工夫（3学年）

### <中学校>

運動の特性や魅力を活かし、新体力テストの結果を向上させる指導の工夫（1学年）

リーダー育成を通じた指導の在り方（1学年）

## 理科指導推進コース

### <保育園>

保育者や友達と一緒に自然物の生長の様子に興味・関心をもつ活動の工夫（3歳児）

身近な自然物に関する絵本や紙芝居を見たり、実際に体験したりできる活動の工夫（2歳児）

### <小学校>

予想や仮説を基に結果を導き、子供たちが相互に考察を深める指導の工夫（5学年）

### <中学校>

ICT機器等の活用により実験・観察の充実を図り、科学的な思考の深化を図る指導の工夫（2学年）

## (3)課題

理数教育の充実を目指して「理科指導推進コース」を設定したが、過去2年間の実績を比較すると受講者数が減少している。2年間の事業で、理科教育の専門性を高めようとする教員や理科指導に関心の高い教員・保育士が、ほぼ受講したと考えられる。また、幼稚園や保育園、こども園における理科指導の実践が難しいことや教科担任制となる中学校では受講希望者が限定されることも一因となっている。

今後は、教育支援館所管事業「実践実技研修（理科教育）」との整理・統合及び内容の改善・見直しが必要と考える。

#### (4) 今後の取り組み

教科等の指導力が高い教員・保育士を計画的に育成していくためには、実施年度ごとに一定程度以上の受講者数を確保する必要がある。本区の教育施策の方向性や学校園のニーズを勘案するとともに、開設するコースや実施内容を見直すことが必要となる。

現在、受講者の推薦要件として「教員又は保育士の職の経験が8年程度、またはこれに準ずる者」と実施要領に定めている。今後は、この要件を見直し、経験年数は少なくとも意欲のある教員・保育士に門戸を広げることで受講者数の確保を図り、事業の効果を高めていく。

## 平成27年度 教育施策評価シート

施 策 名		自律的な学校園経営の実現			
<b>1. 現状と課題</b> (平成26年度末)					
<p><b>【現状】</b>            学校園が自律的な学校園経営に努め、自主的な教育活動を実現するためには、校園長のリーダーシップのもと教職員が個々の能力を十分に発揮するとともに課題解決に組織として取り組む体制を整えることが重要となる。学校園は保護者や地域への説明責任を果たしながら、学校園運営に対する理解や協力を得ることで教育活動に対する信頼を構築することが求められる。</p> <p>(1) 学校園マネジメントの充実            学校園においては、自律的な学校園経営の実現と教育の質的向上を図るため、学校園が自ら計画を立て、その計画に基づいた教育活動を実施し、その評価を行うことで改善を図る明確なマネジメントシステムを確立することとしている。学校園の経営計画と評価方法及び評価結果については、教育活動の目標や数値目標を示し地域・家庭に説明するとともに、学校園ホームページや配布物等により広く公表している。</p> <p>(2) 教育行政と学校園の役割分担            教育委員会は、教育・保育の改善や指導方法を研究するための研究授業・保育への指導主事の派遣等、定期的な学校園訪問を推進している。また、教育・保育改善にとどまらず、学校園をめぐる様々な問題に対応する際には、学校園との連携を密にするとともに、解決に向けた対応策を検討し職員を派遣することを含めた指導・助言を行っている。</p>					
<p><b>【課題】</b>            学校園においては、台東区学校教育ビジョンの基本理念に基づき学校園経営を実践しているものの、一部の学校園について取組状況に差があり、効果的なマネジメントシステムの運営に至っていない状況がみられる。「台東区学びのキャンパスプランニング事業」では、専門性・地域性等に優れた活動プランを設定し、各学校園の教育・保育活動の充実を図ることを目的としており、事業をさらに効率的に活用させたり、新たなプランを活用した教育活動を推進していく必要がある。</p> <p>校園長がリーダーシップを発揮し、学校園の魅力を向上させていくための実践を充実させるとともに、園児・児童・生徒はもちろん保護者や地域にもより丁寧に説明・周知し、理解を求めることで自律的な学校園経営の実現を目指していくことが課題となる。</p>					
<b>2. 基本的な考え方と施策の方向</b>					
<p>(1) 学校園マネジメントの充実            学校園経営への支援を進め、学校園の責任者である校長、園長の資質向上のための研修を充実し、学校園のマネジメントの充実に努める</p> <p>(2) 教育行政と学校園の役割分担            教育委員会は中立性や継続性・安定性を確保し、意思決定に努める一方、学校に権限を与え、校長・園長が創意工夫を発揮し自主的な学校経営を進める</p>					
<b>3. 施策の執行状況</b>					
施 策	事 業 名	指標・計画目標	事 業 実 績		
			24 年度	25 年度	26 年度
学校園マネジメントの充実	校園長研修会	研修会の実施 年3回	年3回	年3回	年3回
	幼稚園長・保育園長研修会	園長研修会の実施 年1回	年1回	年1回	年1回
	学校園の検証改善サイクルの確立	学校園経営マネジメントサイクルの充実	充実	充実	充実
教育行政と学校園の役割分担	出前教育委員会	年間 6校園	4校園	5校園	1校園
	教科書採択	教科書採択実施	特別支援学級用教科書採択	特別支援学級用教科書採択	小学校用及び特別支援学級用教科書採択
	学びのキャンパスプランニング	実 施	-	延べ114 プラン実施	延べ120 プラン実施
	魅力ある教育活動の推進	実 施	48校園	48校園	47校園

4. 事業に係る事務事業コスト			
事業名称	26年度 決算額 (千円)	26年度 事務事業 コスト (千円)	26年度 事務事業 コスト割合 (%)
校園長研修会(教職員研修)	3,190	4,209	8.2%
学校園の検証改善サイクルの確立(学力向上のための調査研究)	9,720	11,420	22.4%
教科書採択	120	885	1.7%
学びのキャンパスプランニング	1,846	6,521	12.8%
魅力ある教育活動の推進	24,163	27,989	54.9%
	39,039	51,024	100%

5. 執行状況の評価		
評価の視点	評価	課題等
事務事業の実績は順調に推移しているか。	B A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	学びのキャンパスプランニングでは、実施プランの質・量ともに充実してきているが、一部の学校園においては教育・保育活動の中にプランを取り入れていない実態がある。 出前教育委員会では、26年度、台風等の影響により急遽中止となることが多く、実施できたのは1校のみとなった。各教育委員のスケジュールを勘案の上、予備日を設定する等、できるだけ多くの学校園での開催を目指していく。
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	魅力ある教育活動の推進では、前年度に学校園の計画内容について事前調査やヒアリングを行うことで、限られた予算ながら適切な運営をしている。 幼稚園長・保育園長研修会では、園長が身に付けるべき力を明確にするとともに喫緊の教育課題を勘案したうえで講師を選定したことで、効果的な研修運営が図られた。
事務事業の執行体制上(組織・人員)の課題は無いか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	校園長研修では、学校園の経営状況や校園長のニーズを丁寧に把握することで、本区の教育課題の解決につながる研修内容とすることができた。

6. 総合評価 (上記5の ~ に基づいた総合評価)	
A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	自律的な学校園経営の実現については、学校園への支援事業や校園長対象の研修事業等で一定の成果を上げており、概ね順調に推移している。今後も、学校園本来の目的である教育・保育活動の充実を目指し、事務事業の改善・充実に継続して取り組む。

7. 今後の方向性
<p>学校園の行う組織的な取り組みとしてのマネジメント・サイクルが、継続的・発展的に実施されることにより、学校園の改善に結びつくようにすることが重要となる。このことにより、学校園が組織としてより伸長すべき取り組みや新たな課題が明らかになると考える。継続的なマネジメント・サイクルから明確になった経営上の課題や改善のための方向性について、教員・保育士一人一人が共通理解することで、自律的な学校園経営の実現を図っていく。</p> <p>学校園経営マネジメントサイクルの実施では、学校園ごとに経営計画についての評価を行い、その結果と課題に対する改善策について、保護者・地域等への説明を行っている。今後も、課題を解決するための経営計画の内容となっているか、評価とその公表の状況は適正か、PDCAに基づいたマネジメントサイクルは学校園経営の改善に結びついているか等の視点について、学校園訪問等の機会をとらえて確認していく。</p> <p>校園長研修、幼稚園長・保育園長研修では、受講者のニーズに即した内容の研修を運営することができた。今後は校園長が日々の学校運営にすぐ実践できる内容や、教育施策に基づく事業を有機的に活用することの良さ等について具体的に提示していくことが重要となる。研修受講後には、研修内容を活用した学校園経営の実践事例を共有したり、さらに深めたりする場の設定についても検討していく。</p> <p>魅力ある教育活動の推進では、すべての学校園においてそれぞれの特色や実態に応じた活動を行っており、前年度の活動内容をより充実させることで、学校園の魅力や実績をさらに伸長する教育活動となるよう、学校園に対する経営支援を推進していく。</p>

< 自律的な学校園経営の実現の主な事業の取り組み >

「学びのキャンパスプランニング」

(1) アクションプランの記載内容

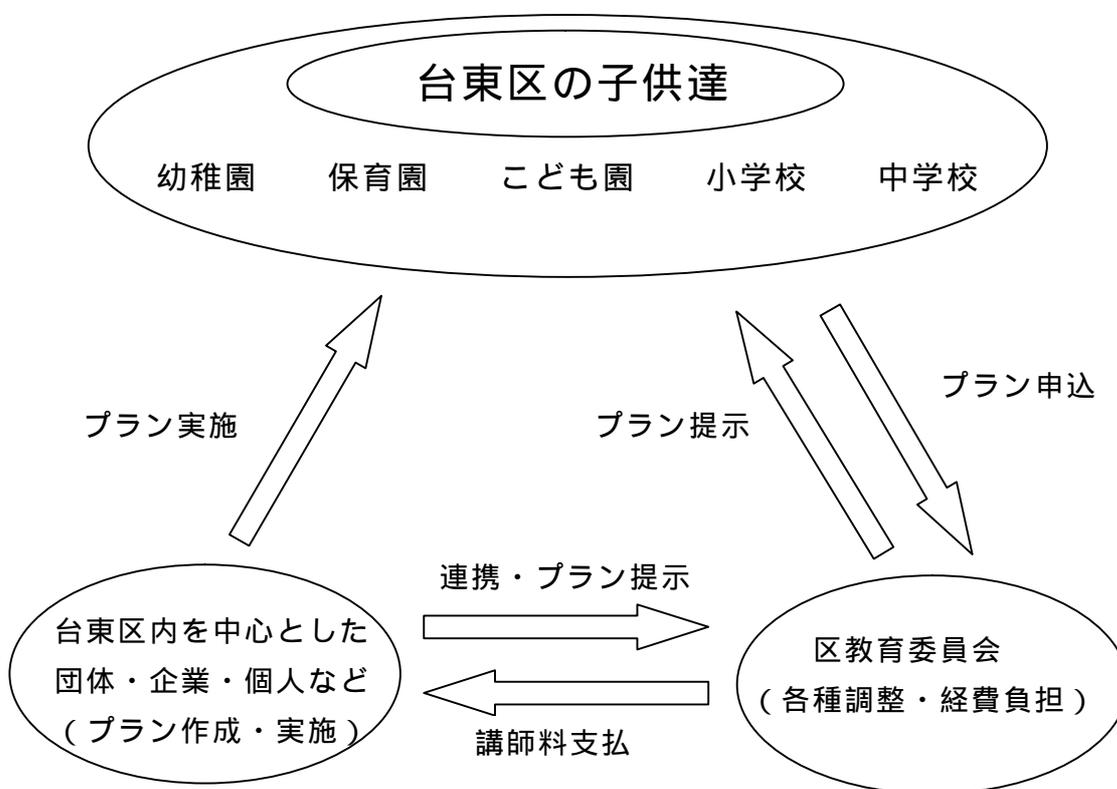
台東区内の博物館や美術館、企業や団体、区にゆかりのある学識経験者などと連携して、台東区学校教育ビジョンの実現に向けた取り組みを計画する。

各校園はその計画の中から、自校園に合った計画（プラン）を選択し、講師の派遣等を受けて実施する。

(2) 実施方法

教育委員会は、連携先の協力のもと、プランを企画・調整し、各校園に提示する。学校園は提示されたものの中から自校園に合ったプランを選択し、連携先と日程調整などを行った上で実施する。

< 学びのキャンパスプランニング関係図 >



### (3) 取組み状況

平成25年に、本区が目指す学校教育の理念や方向性を示した「台東区学校教育ビジョン」を策定し、施策を進めている。このビジョンでは『まちを学びのキャンパスととらえ、世界に飛躍し未来を創る人材を養成する』という基本理念がある。この理念を実現するために、台東区内の専門性をもった人材を活かし、子供たちを育む、学びのキャンパスプランニング事業を実施している。

#### < コンセプト >

- ・台東区の文化・芸術・自然環境や地域の方々、または様々な分野の専門家から子供達が学び、未来を築く力を付けていく。
- ・台東区で学んだ子供達が、地域の営みや豊富な文化芸術の拠点などを身近に感じ、ふるさと台東区への愛着を深める。
- ・教科書だけでは学べない、特別な体験を伴う授業により学習の理解を深める。

#### < 企画するプログラムの内容 >

- 連携先主体の専門性を活かしたプログラム
- 台東区の地域性を活かしたプログラム
- 子供の発達段階に合わせたプログラム
- 子供達の心に響くプログラム

#### 全体のプラン数について

台東区の文化・歴史・芸術など様々な分野の専門家から子供たちが学び、未来を築く力を付けていく。また、地域の営みや豊富な文化芸術の拠点などを身近に感じ、ふるさと台東区への愛着を深めることを目的に、様々な連携先とプランを企画した。

そのプラン数は、平成26年度は84プランと、平成25年度のプラン数より31プラン増えた。この中から、小学校・中学校・幼稚園・保育園・石浜橋場こども園の各校園長が、自校園に合ったプランを選んで実施した。

年 度	連携先	プ ラ ン 数				実施数
		計	園	小学校	中学校	
25年度	20	53	4	34	33	114
26年度	28	84	14	59	50	120

(重複プラン含む)

< 提携先例 >

国立科学博物館、東京国立博物館、国立西洋美術館、台東区芸術文化財団  
 恩賜上野動物園、東京文化会館、国際子ども図書館、東京都助産師会  
 金融機関、大学、専門学校、NPO法人、専門技能をもつ方 等

プラン実施状況

各学校園で実施したプランの実施状況は、47校園の全体で120件となっている。また、各学校園の平均プラン実施数は、2.6件となっている。

学 校 園	校園数	実施数	平均実施数
幼稚園・保育園・こども園	21園	45件	2.1件
小学校	19校	64件	3.4件
中学校	7校	11件	1.6件
計	47校園	120件	2.6件

学校園が実施した主なプラン

園児向け : 遊びながら防災を学ぶ、器楽コンサート、親子工作教室、  
 伝統工芸「つまみ細工」を楽しむ 等

小学生向け : 環境の授業、万華鏡のお話と制作、能楽体験、尺八体験、  
 パズルで楽しく学ぼう、オペラ歌手がやってきた 等

中学生向け : 落語鑑賞と体験、日本料理と包丁、いのちの授業、  
 夢を語る授業 等

#### (4) 課題

平成24年度は、この学びのキャンパスプランニング事業を実施することのできる連携先を探し、プランを企画・調整した。平成25年度より、この事業を各学校園で実施しており、2年目の事業である。

プラン数、実施件数、ともに平成25年度より平成26年度の方が、増加傾向にあるが、プランを実施していない学校園が見受けられ、事業の定着が不十分な面がある。

また、各学校園は、プランを2件以上選んで実施することになっているが、2件以上実施していない学校園もある。

さらに、プランが増えてもその事業内容が学校園に正確に伝わらず、魅力的だと思われるプランが選ばれていないなどの課題があり、プランの内容をどのように学校園に伝えて、実施につなげていくか検討が必要である。

#### (5) 今後の取り組み

プランを実施した学校園からのアンケート等を元に、連携先と企画・調整を進め、学校教育ビジョンの実現のため、プランの実施内容をより良いものにし、充実させていく。その上で、プランの内容が正しく学校園に伝わり、選択しやすくなるよう、周知方法を改善していく。連携先に関しても、専門性をもった個人や団体を開拓し、さらに多くのプランが実施できるよう、検討を重ねていく。

また、プランを実施していない、もしくは実施数の少ない学校園に関しては、プランの実施を促し、実施したいプランがないのであれば、どういったプランがあれば実施できるかなど、学校園の希望に沿うプランを企画していく。

今後は、さらに充実したプランを企画し、実施する機会を増やすことで、連携先が独自にもっている専門性や伝統文化、技能を子供たちに伝え、教科書だけでは学べない特別な体験を伴う貴重な機会を子供たちに提供していく。

# 平成27年度 教育施策評価シート

<b>施 策 名</b>	伝統・文化を継承・発展させる
--------------	----------------

## 1．現状と課題 (平成26年度末)

### 【現状】

台東区は、全国でも有数の文化財の宝庫であるとともに、地域に伝わる特徴のある伝統行事や芸能等が豊富にあり、地域の生活に根付いている。これらの調査、保護を進め、保存・活用を図っていくことが求められている。

伝統・文化を継承・発展させるため、身近に誇れる学習素材として有効活用していくことが求められており、下記の取り組みを進めている。

#### (1) 芸術文化の振興

台東区の持つ歴史と文化、芸術を活かし、芸術文化に身近に触れる機会を区民に提供するため、公募による区民の作品(絵画・彫刻)を展示する「台東区美術展」、東京藝術大学等と連携して開催する「ふれあいコンサート」、台東区社会教育団体協議会加盟21団体の日頃の活動成果を広く区民に発表する「文化祭」等を実施している。

また、区民等が文化情報を容易に得られる環境を整えるため、企画展(年4回)や外部講師を招いての講演会、スライド・トーク(毎月開催)等の実施と画像資料のデータ化などの整理を進める「郷土資料の記録と整備事業」、区内の文化財を紹介する「史跡説明板の整備」を進めている。

#### (2) 区民文化財の保存・活用

区民が所有する区に関連する貴重な映像フィルム等を募集しデジタル化する「映像アーカイブ」や区民文化財台帳登載及び指定のほか、文化財保存・活用のための総合的な取組、貴重な映像資料の保存・貸出、池波正太郎関連資料の収集・展示を行っている。

また、区立幼稚園・小学校等を訪問し、紙芝居を演じたり、伝承遊びを教えたりといった活動を通じて、郷土を愛する心を育む「民話と伝承遊びの普及」や、子供たちに郷土の歴史・文化の伝承を図り、郷土を愛する心を育むため、「台東区歴史・文化テキスト」の作成・配付と、テキストの理解を深めるため、「台東区子ども歴史・文化検定」を実施している。

### 【課題】

#### (1) 芸術文化の振興

台東区美術展や文化祭では、出展者や参加者の維持及び新規参加者の獲得のため広報活動の拡充が求められる。郷土資料のデジタル化については作業に時間を要するため、整備が追いついていないという課題がある。

#### (2) 区民文化財の保存・活用

「民話と伝承遊びの普及」については、普及活動校・園の充実、新規普及委員の育成が必要である。歴史・文化検定は、受験者数を増やすため、各学校での検定の実施についての検討が必要である。

## 2．基本的な考え方と施策の方向

### (1) 芸術文化の振興

台東区の持つ歴史と文化、芸術を活かし、芸術文化活動の発表の場を設け、身近に触れる機会をつくる。台東区の多彩な文化情報を収集・蓄積しながら、様々な方法で広く発信し、誰もが容易に情報を得られる環境整備を行う。

### (2) 区民文化財の保存・活用

台東区固有の文化を検証のうえ、分類・整理・保存しながら活用し、次の代に引き継ぐ。あらゆる立場の区民が、等しく文化に触れることが出来る仕組みをつくる。区民の誰もが身近に地域の文化を知り、学び、実践する機会を充実し、文化を継承・発展させる。

## 3．施策の執行状況

施 策	事 業 名	指標・計画目標	事 業 実 績		
			24年度	25年度	26年度
芸術文化活動の推進	台東区美術展	入場者数 1,400人	1,332人	1,106人	1,235人
	身近な音楽文化の機会 (ふれあいコンサート)	実施	実施	実施	実施
	文化祭	来場者数 7,400人	7,093人	7,302人	7,518人
文化情報のデータベース化	郷土資料の記録と整備	資料室利用件数 65,000人	64,660人	58,764人	58,761人
	史跡説明板の整備	史跡説明板設置 2基	新規1基 取替1基	取替2基	新規1基 取替等2基
台東区固有の文化の継承	文化財の保存・活用	区民文化財台帳登載 5件	6件	4件	7件
	台東区映像アーカイブ	貸出件数 400件	444件	299件	300件
	台東区の民話と伝承遊びの普及	参加児童・園児数 2,500人	2,368人	2,528人	2,583人
	池波正太郎記念文庫	蔵書数 23,000冊	22,396冊	22,955冊	23,475冊
皆が文化に触れることができる仕組みづくり	埋蔵文化財ウィーク	子ども考古学教室の 実施 1回	1回	1回	1回
台東区の文化を身近に学ぶ機会の充実	台東区歴史・文化検定	検定の実施 1回	1回	1回	1回
	台東区の民話と伝承遊びの普及	参加児童・園児数 2,500人	2,368人	2,528人	2,583人
	郷土資料の記録と整備	資料室利用件数 65,000人	64,660人	58,764人	58,761人

4. 事業に係る事務事業コスト			
事業名称	26年度 決算額 (千円)	26年度 事務事業 コスト (千円)	26年度 事務事業 コスト割合 (%)
台東区美術展	1,008	4,409	1.3%
身近な音楽文化の機会(ふれあいコンサート)(生涯学習センター管理運営)	214,679	238,768	68.9%
文化祭	134	4,810	1.4%
郷土資料の記録と整備	4,652	21,655	6.3%
史跡説明板の整備(文化財保護)	23,953	33,531	9.7%
文化財の保存・活用(文化財保護)			
埋蔵文化財ウイーク(文化財保護)			
台東区映像アーカイブ	6,756	11,856	3.4%
台東区の民話と伝承遊びの普及	708	2,407	0.7%
池波正太郎記念文庫	10,075	21,976	6.3%
台東区歴史・文化検定	752	7,043	2.0%
	262,717	346,455	100%

5. 執行状況の評価			
評価の視点	評価	課題	等
事務事業の実績は順調に推移しているか。	B A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	「台東区美術展」や「台東区文化祭」等の事業は、出展者や参加者数が一定規模を維持しており順調といえる。 「台東区の民話と伝承遊びの普及」は普及委員を確保するために養成講座を実施するなどの対応を行った。 「映像アーカイブ」等の映像資料や郷土資料の貸出件数等は横ばい又は減少傾向にあるため、利用件数を増やすための取り組みをさらに充実していく必要がある。 「歴史・文化検定」については、受験者数を増やすため受検方法の見直しを行う必要がある。	
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	東京藝術大学と連携している「ふれあいコンサート」や台東区社会教育団体協議会と共催している「台東区文化祭」「台東区美術展」などのように、関係団体等と連携した事業を実施している。 「文化財の保存・活用」では、調査をはじめとする専門的な事務は、文化財保護調査員と文化財保護審議会委員により効率的に行っている。 「郷土資料の記録と整備」では、レファレンス・特別貸出などにより、台東区の歴史や文化について知りたいという利用者のニーズに応えており、より一層ニーズの高い資料収集に努めていく。	
事務事業の執行体制上(組織・人員)の課題は無いか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	「台東区の民話と伝承遊びの普及」については、普及活動を充実させるため引き続き、普及委員養成講座を実施する。 「歴史・文化検定」の受験者数は年々増加し、検定実施については各学校に浸透してきているが、他の行事などで受検できない状況があった。今後は小中学校と連携を深め、更なる周知や児童生徒が受検しやすい日に受検日を設定するなど、受験者が増えるよう取り組んでいく。	

6. 総合評価 (上記5の ~ に基づいた総合評価)	
A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	事業実績は入場者、来場者、利用者の件数などいずれも一定の規模を維持しており、事業全体としては順調に推移していると考える。

7. 今後の方向性
<p>「台東区歴史・文化検定」については、27年度から各学校での団体受検を開始し、受験者数が26年度の146名から10倍以上の1,598名となった。今後も団体受検(学校受検)を継続するほか、テキストの改訂、教員の理解を深めるための研修会の実施、オリンピック・パラリンピック生涯学習講座でのテキストの活用などでより事業の拡大を図る。</p> <p>「台東区の民話と伝承遊びの普及」については、普及活動をすべての区立校・園で実施しており、今後は新たな普及作品や実施方法の拡充についても検討していく。そのため、普及委員会の内容の充実や、普及委員の人材育成に努めていく。</p> <p>また、平成29年度に「台東区美術展」は第40回、「文化祭」は第50回という節目の年を迎えることから、これを効果的に活かしていけるよう、事業内容の充実を図る。</p> <p>「映像アーカイブ」「郷土資料の記録と整備事業」については、利用件数を増やすため、区民のニーズを把握しながら資料のデジタル化を促進していく。</p> <p>その他の事業についても、企画展・講演会の内容の充実や、区民向け文化財講座の開催、池波正太郎記念文庫における展示方法の見直しなど、工夫の余地があると考えられる。</p> <p>いずれの事業も、より多くの区民に芸術文化に触れてもらうため、広報、区ホームページ、CATVなど様々な広報媒体を利用して周知を図りたい。</p>

< 伝統・文化を継承・発展させる の主な事業の取り組み >

「台東区歴史・文化検定」

( 1 ) 生涯学習推進プランの記載内容

区の子どもたちに郷土の歴史・文化を伝えるため『台東区歴史・文化テキスト』を作成し、その学習の成果として「台東区子ども歴史・文化検定」を実施する。

( 2 ) 取り組み状況

「台東区子ども歴史・文化検定」（以下「検定」という。）について、26年度下期に、区内小中学校より、検定実施日に受験できない生徒がいるため、学校の授業中に受験できるようにしてほしいとの要望があった。

また、小学校から中学校に進学する際、『台東区歴史・文化テキスト』（以下「テキスト」という。）をなくしてしまう生徒が多く、中学校でも使うので持っているように指導してほしいとの要望もあり、以下のように、27年度の事業を取り組んだ。

テキストの配付

ア 時 期	4月下旬
イ 対 象	区内小学5年生、新補小中学校教員、区内中学校へ貸出用
ウ 配付数	小学校 約 1,070 部
	中学校 約 600 部
	合 計 約 1,670 部

テキストの活用・促進

テキストと社会科及び歴史の教科書で関連している部分を示した、「対応頁一覧」を作成し、各小中学校に、テキストの授業での積極的な活用を促した。

「第6回台東区子ども歴史・文化検定」実施

ア 団体受検（学校受検）

- a 日 時 9月2日(水)～30日(水)45分間（実施日は実施校にて決定）
- b 対 象 小学校5・6年生及び中学生（実施学年は実施校にて決定）
- c 会 場 各実施校
- d 実施校 区内小学校19校中12校  
 （内訳）上野、根岸、忍岡、谷中、金曾木、蔵前、東浅草、  
 松葉、千束、石浜、田原、金竜  
 区内中学校8校中5校（都立白鷗高校付属含む）  
 （内訳）御徒町台東、柏葉、上野、浅草、都立白鷗高校附属

イ 個人受検

- a 日 時 8月22日（土） 14時00分から14時45分まで
- b 対 象 区内在住・在学の小学校5・6年生及び中学生  
 団体受検（学校受検）実施校（実施学年）の児童・生徒は除く
- c 会 場 区役所10階1003会議室

ウ 受検者数

	第6回（27年度）		第5回 （26年度）
	団体受検（学校受検）	個人受検	
小学校	889名	14名	130名
中学校	687名	8名	16名
合計	1,598名		146名

他、教員受検5名

エ 成績表等の配付

- a 配付物 成績表  
 認定証  
 認定カード（区立文化施設4施設無料入館特典付）  
 台東区指定生活文化財金太郎飴（参加賞）  
 表彰状（成績優秀者のみ）

### (3) 課題

検定実施後、27年11月下旬から12月上旬にかけて、本年度の検定について、台東区内の小中学校（未実施校含む）を対象に、アンケートを実施した。以下、アンケートから抽出した主な課題と解決案である。

#### 問題の難易度

##### ア 課題

- ・問題が広範囲であり小学生には難しい

##### イ 解決案

- ・問題文を長くするなど、読んで推測できる問題を出題していく
- ・何割かは過去問から必ず出題されることをアナウンスしていく

#### 学校での学習の支援

##### ア 課題

- ・テキストを児童一人の力で読み、理解していくには困難さがあり、練習問題や教えるボランティア等が必要
- ・事前学習ができればいいが、学校行事や授業時数の関係で難しい

##### イ 解決案

- ・何割かは過去問から必ず出題されることをアナウンスしていく
- ・教員への勉強会等の開催を検討する

#### 中学校のテキストの活用

##### ア 課題

- ・小学5年生時にテキストを配付されたがなくなってしまった生徒がいた

##### イ 解決案

- ・テキストは今後も使用する旨、各小中学校へ周知する

#### 成績表等の配付について

##### ア 課題

- ・参加賞として台東区指定生活文化財金太郎飴を配付しており、小学校については好評であったが、中学校では飲食物を配付するのは不適当との回答があった

##### イ 解決案

- ・中学生の参加賞として、文化財に関する文房具（重ね地図クリアファイル等）の配付を検討する
- ・小学生の参加賞については、台東区指定生活文化財金太郎飴を継続する

#### (4) 今後の取り組み

##### 団体受検（学校受検）の継続

多くの児童・生徒に受検してもらうため、28年度以降も、団体受検（学校受検）は継続していく。区内の小中学校全校で検定を実施できるよう、学習精度を高める施策を行うなど、課題を解決し、より魅力ある事業にしていく。

##### 教員向けの研修会の実施

校園長会での機会を活用した管理職向けミニ研修や、社会科担当教員向けの研修会で台東区の史跡めぐりを行うなど、地域の歴史の理解を深めることで、テキストの活用を促す。

##### オリンピック・パラリンピック生涯学習講座での活用

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて実施する、日本文化や台東区の歴史等の学習講座でテキストとして使用し、広く区民に紹介することで子供たちが学ぶ環境を作り、テキストへの関心を高める。

##### テキストの改訂

29年度には、テキストの改訂を予定している。今後も台東区の子供や大人が郷土を誇り愛することのできるテキストを作成するため、学識経験者等で構成するテキスト改訂委員会を適宜実施し、テキストの改訂準備を進める。

## 平成27年度 教育施策評価シート

施 策 名	健康的な生活の実現と生涯スポーツを实践する				
<b>1. 現状と課題</b> (平成26年度末)					
<p><b>【現状】</b></p> <p>近年、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会や、健康づくりに対する意識の高まりなどを背景として、生涯スポーツへの関心が高まっている。</p> <p>だれもが身近なところで楽しみながら継続してスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指し、下記の取り組みを進めている。</p> <p>(1) 生涯スポーツ活動の支援</p> <p>多くの区民が気軽に参加できる日常的なスポーツ活動の機会を設けるため、地域の人たちが自ら主体となって運営する、種目・目的・世代などの多様性を備えた総合型地域スポーツクラブの設立支援、普及啓発事業を行った。</p> <p>また、地域が主体的にスポーツ振興に取り組んでいくために、地域スポーツ団体と協働したスポーツ事業を実施している。</p> <p>(2) スポーツ施設の運営</p> <p>区民の誰もが身近なところでスポーツができるよう、既存スポーツ施設の整備、修繕を行い、運営管理の向上を進めている。</p> <p>また、旧田中小学校を体育施設として改修し、新たな環境整備を行った。</p>					
<p><b>【課題】</b></p> <p>(1) 生涯スポーツ活動の支援</p> <p>さらなる生涯スポーツの機会や情報提供の拡大を図るため、総合型地域スポーツクラブや各イベント・大会事業の広報活動の拡充が求められる。</p> <p>(2) スポーツ施設の運営</p> <p>区民のスポーツニーズに応えるため、利用しやすいスポーツ施設運営の充実を進めているが、故障等が起きた際には迅速に対応することが必要となる。</p>					
<b>2. 基本的な考え方と施策の方向</b>					
<p>(1) 生涯スポーツ活動の支援</p> <p>スポーツ活動を通じて、運動への興味や健康への関心を高めていくため、生涯スポーツの機会や情報提供の拡大を図り、生涯スポーツ社会実現に向けたスポーツ活動を支援していく。</p> <p>(2) スポーツ施設の運営</p> <p>区民のスポーツニーズに応えるため、区民が利用しやすいスポーツ施設の運営を充実させていく。</p>					
<b>3. 施策の執行状況</b>					
施 策	事 業 名	指標・計画目標	事 業 実 績		
			24 年 度	25 年 度	26 年 度
生涯スポーツ活動の充実	総合型地域スポーツクラブ支援	啓発事業参加者数	274	217	148
	総合体育館個人開放	利用者数	169,179	177,685	170,204
	スポーツひろば	参加者数	8,011	8,195	8,496
	区民体育祭	参加者数	8,488	8,271	8,137
	ラジオ体操会	実施会場数	142	142	142
	初心者スポーツ教室	参加者数	1,075	1,501	1,814
	地域スポーツ団体との連携	連携	連携	連携	連携
	台東スポーツフェスタ (体育の日記念行事)	参加者数	1,135	1,547	1,011
スポーツ施設の運営	地域体育施設整備	体育施設整備	実施設計	耐震補強 工事	施設改修 工事
	台東リバーサイドスポーツセンター	利用者数	442,092	440,223	439,146
	柳北スポーツプラザ	利用者数	22,568	25,265	25,090
	清島温水プール等	利用者数	68,386	68,394	66,645
	郊外スポーツ施設	利用者数	41,831	31,045	31,775

4. 事業に係る事務事業コスト			
事業名称	26年度 決算額 (千円)	26年度 事務事業 コスト (千円)	26年度 事務事業 コスト割合 (%)
総合型地域スポーツクラブ支援	335	4,161	0.7%
総合体育館個人開放	2,989	3,414	0.5%
スポーツひろば	1,551	2,400	0.4%
区民体育祭	3,825	5,524	0.9%
ラジオ体操会	1,197	2,897	0.5%
初心者スポーツ教室	3,732	4,582	0.7%
台東スポーツフェスタ(体育の日記念行事)	869	2,994	0.5%
地域体育施設整備	294,158	299,258	47.0%
台東リバーサイドスポーツセンター	180,345	183,319	28.8%
柳北スポーツプラザ	30,967	34,368	5.4%
清島温水プール等	63,211	65,336	10.3%
郊外スポーツ施設	22,835	27,934	4.4%
	606,014	636,187	100%

5. 執行状況の評価		
評価の視点	評価	課題等
事務事業の実績は順調に推移しているか。	B A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	「スポーツひろば」や「初心者スポーツ教室」等の事業は、参加者数が維持・増加しており、順調といえる。 「区民体育祭」や「台東スポーツフェスタ」等の一部の事業においては、天候等の要因はあるものの参加者数の減少がみられるため、さらなる参加者のニーズの把握や、周知の拡充が求められる。
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	「台東スポーツフェスタ」の運営や「ジュニア駅伝大会」の運営協力、「東京マラソン」のボランティア参加など、地域スポーツ団体と連携した事業を実施している。 引き続き、地域スポーツ団体と連携し、区の生涯スポーツ振興を促進していく。
事務事業の執行体制上(組織・人員)の課題は無いか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	「台東リバーサイドセンター」や「清島温水プール」において、指定管理者と十分に協議を行い、事業の効率化に努めている。 また、各イベント、大会において地域スポーツ団体と連携することにより、必要な人員数で事業が執行できている。

6. 総合評価 (上記5の ~ に基づいた総合評価)	
A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	事業実績は参加者、利用者の件数など、いずれも一定の規模を維持しており、事業全体としては順調である。

7. 今後の方向性
<p>(1) 生涯スポーツ活動の支援 「初心者スポーツ教室」では、参加者数が増加しているものの、今後も安定的な教室参加が確保できるよう、各教室において参加者ニーズの調査を行う等、事業改善に努めていく。 旧田中小学校を改修し、総合型スポーツクラブ「たなかクラブ」を設立したが、今後、地域住民の参加を増やし、多くの会員を獲得することが課題となる。スポーツ教室の増加や、会員の中から協力者を発掘する等、運営体制の強化に努めていく。 「区民体育祭」については、広報、区ホームページでの周知に加え、平成27年度から新たにチラシ・ポスターを作成・配布を行い、参加者増加にむけて周知の拡充を図る。 その他の各イベントや大会においても、広報、区ホームページ、CATVなどの様々な広報媒体を利用し、さらなる生涯スポーツの機会や情報提供の拡大を図るため、周知を徹底していく。</p> <p>(2) スポーツ施設の運営 「柳北スポーツプラザ」においては、平成27年度から新たな種目であるフットサルができるように、都の補助金を活用して体育館の整備を行っている。 その他のスポーツ施設についても、区民のスポーツニーズの把握に努め、補助金等を有効活用しながら、区民が利用しやすいスポーツ施設の維持・修繕を行い、運営管理を充実させていく。</p> <p>(3) 東京オリンピック・パラリンピックに向けて 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の開催に向けて、障害のある方ない方を問わず、広くスポーツの魅力を知ってもらうため、障害の有無や体力に関わらず楽しめる障害者スポーツの体験や、障害者が参加できる継続的なスポーツ教室を行っていく。 また、平成21年度に策定した台東区スポーツ振興基本計画を、策定から7年が経過し「台東区長期総合計画」の改定に加え、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定など、社会情勢が変化したため、基礎調査及び計画の改定を行う。</p>

< 健康的な生活の実現と生涯スポーツを実践するの主な事業の取り組み >

「スポーツひろば」

(1)生涯学習推進プランの記載内容

区民が身近な場所で気軽にスポーツに親しめるよう、週1回程度一部の区立小中学校の行程や体育館に指導員をおいて「スポーツひろば」として開放する。また、幅広い年齢の方が気軽にスポーツを楽しむ機会を提供するため、初心者教室等の事業も実施する。

(2)取り組み状況

スポーツ推進委員運営スポーツ教室

スポーツひろば指導員（体育協会から推薦）を配置し、8種目について10校で実施。また、スポーツ推進委員が企画・運営のスポーツ教室を2校で実施。

種 目	学 校	曜日	回数	利用者数	1回あたり平均利用者数
バスケットボール	柏葉中	月	47	969	20.6
バレーボール	浅草中	月	42	629	15.0
テニス	上野小	土	34	552	16.2
ソフトテニス	金竜小	月/木	72	656	9.1
バドミントン	根岸小	水	41	594	14.5
	富士小	木	43	687	16.0
卓 球	大正小	火	45	983	21.8
	田原小	土	40	813	20.3
	御徒町台東中	月	43	828	19.3
バウンドテニス	御徒町台東中	月	43	378	8.8
少林寺拳法	谷中小	金	28	221	7.9
スポーツ推進委員 運営スポーツ教室	大正小	金	32	559	17.5
	田原小	水	32	627	19.6
計			542	8,496人	15.7人

〔利用者推移〕

	24年度	25年度	26年度	対前年度比
利用者数	8,011人	8,195人	8,496人	301人増

〔スポーツ推進委員運営スポーツ教室内訳〕

スポーツ推進委員協議会がニュースポーツや軽運動などの教室を運営している。ピラティスやヨガなどの競技スポーツ以外の教室も提供しており、幅広い参加者を募ることができた。

種目		日時	参加者人数	
大 正 小	やさしいヨガ	4月25日～6月20日（全8回）	241人	559人
	フラダンス	7月11日～8月1日（全4回）	40人	
	太極拳	8月29日～11月7日（全10回）	187人	
	スポーツ吹き矢	11月21日～12月12日（全4回）	28人	
	コア体操	1月9日～2月13日（全6回）	63人	
田 原 小	太極拳	4月16日～6月18日（全10回）	260人	627人
	ヒップホップ	7月9日～7月30日（全4回）	54人	
	親子ドッチビー	8月20日、27日（全2回）	6人	
	ピラティス	9月17日～11月19日（全10回）	264人	
	エアロビクス	1月21日～3月11日（全6回）	43人	

初心者教室（8種目、10校）

幅広い年齢の方が気軽にスポーツに親しむ機会を提供するため、初心者教室を実施。

種目	学校	曜日	回数	利用者数
バスケットボール	柏葉中	月	1	3
卓球、バウンドテニス	御徒町台東中	月	2	4
バレーボール	浅草中	土	3	11
硬式テニス	上野小	月/木	4	37
ソフトテニス	金竜小	水	2	9
バドミントン	根岸小	木	6	112
	富士小	火	5	86
卓球	大正小	土	3	35
	田原小	月	3	69
少林寺拳法	谷中小	月	4	27
計			33	393人

〔利用者推移〕

	24年度	25年度	26年度	対前年度比
利用者数	194人	307人	397人	90人増

(3)課題

各校スポーツひろばの備品の老朽化について、随時点検をし、老朽化の著しい備品については購入・入れ替えをしていく必要がある。

3年間で利用者が増加しているものの、種目や会場によって利用者数の差があるため、目標達成のためには計画や運営のさらなる工夫が求められる。新規利用者獲得に向けて、これまでスポーツ・運動から遠ざかっている方に参加してもらえようような工夫・改善が必要である。

#### (4) 今後の取り組み

目標の達成に向けて、これまで以上にスポーツひろばについての意見や要望を把握するため、現在行っている教室アンケートの内容を見直し、区民のニーズを的確に捉えた運営に努めていく。

身近なところでスポーツができる機会を提供するとともに、幅広い年代の方々が参加できるため、地域の活性化コミュニティづくりのきっかけにもなっている。

今後も、現状を維持しつつ、実施内容・方法を見直し、スポーツを始めるきっかけづくりやスポーツに親しむ場としてより利用しやすいスポーツひろばを目指す。

## 7 学識経験者による意見

尾木 和英（東京女子体育大学名誉教授）

### 【教員・保育士の資質・能力の向上と教員が子どもに向き合う環境づくりの推進】

- ・効果的な教育活動を支えるのは、指導に当たる教員・保育士であり、子供の活動の場としての教育環境である。本施策の執行に関しては、その意義の十分な理解に立ち、全体的に効率性を考慮してきめ細かな配慮がなされていることが把握できた。
- ・『スーパーティーチャーの育成』『教員教育研究制度』は、指導力向上、人材育成の点から大きな意味を持っている。様々な教育課題への対応、教員同士の会合啓発なども視野に入れつつ、効果的な実施を進めている点は評価できる。
- ・今後、当面する教育課題の分析、参加対象者の実態などに関する検討によって、より実態に即した施策、より効果の上がる施策になるよう留意することが求められる。
- ・特に研修に関わる施策については、『教職員の校務パソコン整備』とも関連させて、ICTの活用に関する内容について、更に充実を図る事が望まれる。

### 【自律的な学校園経営の実現】

- ・マネジメント、PDCA，説明責任の重視を根底におきながら、『学校園マネジメントの充実』に関する事業を展開し、成果をあげていることは評価できる。
- ・『学校園マネジメントの充実』に関しては、家庭・地域に対する説明の内容、特に、学校教育の重点、課題、実施の状況の明示や趣旨周知の工夫などのついて学校差がある事が問題になる。その点に関するきめ細かな実態分析、それを生かした事業実施の改善充実を望みたい。
- ・『教育行政と学校園の役割分担』に含まれる事業については、一体になったの活動展開が一層重要になるだけに、さらに趣旨の徹底、合理的な事業展開の観点から本点検の結果を生かすことが求められる。
- ・『魅力ある教育活動の推進』については、各学校園の創意を生かした特色ある学校づくりに結び付く。それぞれの学校園が、子どもの実態、家庭・地域の要望の把握に立って、新しい課題、切実な課題を取り込んで実践に移すよう働きかけることが必要である。
- ・『学びのキャンパスプランニング』は開かれた教育活動推進に機能する。本事業のコンセプトをさらに十分周知させ、企画の内容、実施方法、成果の活かし方について評価を加え、充実を図る事が求められる。

【伝統・文化を継承・発展させる】

- ・芸術文化の振興、区民文化財の保存・活用、それらを生かした諸活動の充実の観点を確認にして、台東区の特徴を踏まえて効果的に施策を構想し、展開していることが把握できた。
- ・これまでの実施実績を踏まえ、コスト効率も考慮して創意を生かして施策の執行に当たっている点は評価できる。
- ・利用者・参加者のニーズ、取り上げる内容、求められる資料等は常に一定ではないものと思われる。実態把握の方法に工夫を加え、実態に応じる事業展開を望みたい。
- ・『台東区歴史・文化検定』に関しては、さらに子供の実態に即した問題の作成、学校での学習の充実が重要である。地域の文化に関心を深め、地域を愛する心情に結び付く事業であるだけに、研修会等の機会に学校側の意見も求め、充実を図る事を望みたい。

【健康的な生活の実現と生涯スポーツを实践する】

- ・東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れつつ、生涯スポーツ、区民の実態に即したスポーツ施設に関わる事業を着実に、かつ効果的に実施していることが把握できた。
- ・区民の実態を十分考慮して事業が策定され、これまでの実績を踏まえつつ着実に執行に移されていることは評価できる。
- ・『スポーツ施設運営』については、スポーツには思いがけない事故の発生が避けられないという実情があるので、様々な状況を考えてきめ細かな配慮をすることが必要である。
- ・『スポーツひろば』に関しては、生涯スポーツの導入の意味、日常的なスポーツ活動への導入の点から大きな意義が認められる。今後については、開催の日時の設定、回数、指導員の選定などについてさらに検討を加え、充実を図ることが求められる。
- ・特に、指導員に関しては、内容にかかわるアドバイスとともに、スポーツに親しむ上での基本的なことについても簡単な指導・助言ができる方を選び、生涯スポーツの普及・振興に役立てることが望まれる。

前田 烈（大智学園高等学校顧問）

【教員・保育士の資質・能力の向上と教員が子どもに向き合う環境づくりの推進】

・今後の方向性の欄に「教育委員会の主催の研修についても学校園の管理職との連携を深め〇」Tと関連付けた構成となるよう検討・改善を重ねていく」と力強く書かれているが、まさにその通りで、事務局の実質的な指導や対応を大いに期待している。

・今回の点検評価の対象とはなっていないが、「連携の日」が設定されていることは大変意義があると思う。「形骸化していないかどうか」や「一層充実するためにどうするか」については絶えず意識し、検討する必要がある。

例えば、

地区（ファミリー・グループ）ごとに、幼・小・中共通の研究テーマで、教諭、副校長、園・校長が職層ごとの視点で研究し、報告・発表も、教務主任会 副園校長会 園・校長会と、前段階の報告を受け、それを生かした形で、時間差を置いて実施する

などが、考えられる。

この例はアクションプランに記されている「0歳から15歳までの一貫した教育の接続、実現」にも当てはまると思われる。

「学習習慣」「生活習慣」の段階的で発展的な、一貫した指導内容や方法の研究は、台東区教育研究会に研究テーマとして委託を出来るだろうし、研究成果の実践についても、園・小・中学校長会と協議し、教育委員会と園・小・中学校が協働し、歩調を合わせて推進出来るのではないかと？

公私立に関わらず、幼児に係る幼稚園、保育園、認定こども園の保育・教育関係者は、台東区全体の園の充実発展のために、一層、相互交流し、大同団結してもらいたい。そのための教育委員会の先導する力や対応力を発揮してほしい。

・園・小・中学校長会は、各々の会の「教育や経営に関する協議や研究」の活性化に努め、その成果のまとめを教育委員会に積極的に提言されることを期待する。

・各園・学校の運営協議会の状況はどうであろうか？各園・学校の教育の充実のために、この会の意義、役割に期待し、活発な協議を願いたい。

・教員、保育士の研修の時間と場と内容・方法を工夫、充実してほしい。特に乳幼児の健康安全面での保育や教育は重要である。

教育支援館施設の学校教育情報室が活用できるように、保育・教育関係の資料や教員・保育士が活用しやすい室の整備や運営の仕組みを充実したい。

その上で、園や学校関係者等への広報に努めてほしい。

・『スーパーティーチャーの育成』事業は大変いい事業と思う。教員の採用・

異動の現況を考えると、各地区教育委員会所属の教員の資質を高めていくには、各地区教育委員会が積極的にならざるを得ない。その意味でもこの事業は充実を期待したい。

3コースの設定も適切と思う。リーダー教員の育成とその波及をねらいとする事業であるが、事業の内容や方法（講師やカリキュラム等）の質を一層検討して充実を図ってほしい。その中で、教科の専門的な技術のみならず、領域等の分野を加味したカリキュラムにするか、又は、1コース増やして道徳や特別活動など「心と態度を育てる」面の教育も念頭に置いてほしい。

受講者の確保については、(4)今後の取り組みに記されているように、実施要領の見直しは妥当であると思うし、新たに実績の履歴記載なども検討し、都教育委員会に働きかけてみたらどうか。事務局で検討し、園・校長会と協働することで円滑に進められるのではないか

既に実施されていると思うが、指導課以外等の教育委員会事業や施設も活用したり、支援を受けることも考えてほしい。

例えば、

小学校理科コースで、生涯学習課事業の台東科学クラブの専門指導員や施設を活用

スーパーティチャー研修員の、新任教諭研修会での指導実習等での活用など。

- ・事務事業の執行体制上の課題について、B評定ということで、「退職園長が研修支援専門員である幼稚園教育が人材確保面で課題がある」と記されているが、公立園が少なく、退職者も少ないという事情から理解はできる。「新任教員や課題のある教員の指導育成は、経験を積んでいる退職者が最適」という先入観がありはしないか。発想を転換する必要はないだろうか。教員の育成は基本的には、教育委員会事務局と各園・校長の役割だと思われる。

基本的には、教育委員会事務局と現職の園・校長会が協働して、教員育成にあたる。教員育成の鍵となる「教員育成の方針、内容、その計画」が明確となっていることが先決。明確であれば後は流れをつくれるのでは？現在の、この部分を点検することから始めたい。

新たに育成内容をつくる場合に

例えば、

事務局で原案を作成し、園・校長会と協議で固める。

実際の進行は、運営担当の指導主事・校長を決める。

講師は校長・退職校長・教頭・指導主事が輪番で担当。

など可能性はないか？具体的、現実的に進められるのではないか？

大切なことは、常日頃からの、園・校長会と教育委員会事務局との役割に対する節度と信頼感に基づく良好な関係の醸成だろうと思う。園・校長は、

教育に対する強い志があるのだから、役割を、明確にして持ちあえば協働は可能であろう。

#### 【自律的な学校園経営の実現】

- ・学校・園の魅力を向上させていくためには、まず、校園長の所属教職員へのリーダーシップが期待される。

そのためには、魅力ある学校・園づくりに向けての行政と校園長の積極的な意思と意欲を区民に示すことが必要と思う。その方法として次のようなことを検討してはどうか

「地域社会に各園・学校を開く」という視点から、各園・学校の教育方針・内容の構想等を公表する場を設定する。その内容に対する、区民・学識者等による評価や協議の機会と場を設ける。

教育委員会は、園・校長会との協議を重ねて、相互の意思の交流を密にするとともに、指導性を発揮する。必要があれば、予算措置を考える。

園・校長会に集約された考えや意見を教育委員会事務局に提言してもらい、それについて建設的に意見の交換をする。その結果も、事務局事業の計画、推進に参考にして生かす。

- ・区立中学校の特色ある学校の創造は、学校選択制度実施の前提のことと思う。特色づくりが円滑に進められて、区民に理解されている学校がある反面で、必ずしも地域の期待に十分には応えていない学校もあるように感ずる。区教育委員会の支援不足か、学校の対応不足か、別の要因があるのか、関係者の点検を望み、改善を期待したい。

地域に信頼される学校の特色は、基盤に生徒指導があり、その上での特色ある教育があるようだが、逆に、特色ある教育が健全な生徒の育成を導き出すということも考えられる。事務局は両方の考えを按配して地域や学校への助言してはどうか？

幼稚園・保育園・小学校の特色は地区の文化・伝統、人材と色濃く結びつきが不可欠であろうか。

- ・『出前教育委員会』について、教育委員が、園や学校に出向いて、各園・学校の状況を実際に把握し、代表教職員と意見交換・懇談することは大変にいいことと思う。園・学校教職員の意欲の喚起にも、教育委員会と学校の相互理解と一体感の醸成も期待できる。日程調整の困難さも予想され、回数は多くはできまいが、園・学校の数が多くない本区だから可能という利点もあり、継続してほしい。

- ・園・校長等、園・学校管理職研修の一層の充実について、「所属員はリーダーのレベルまでは成長できる」という言葉があるように、所属教職員は園・校長の言動に感化されて意識や意欲や実践を高めていく。言動の源となる「見

識」と「人間性...コミュニケーション力」をさらに幅広く高める管理職研修を検討してほしい。

園・学校管理職研修を一層充実したものにするために、教育委員会事務局と園・校長会は、共通の認識の下で、研修内容・方法や日程のやり繰り、プログラム、講師の選定等について意見交換をして、質の高いものにしてほしい。

- ・教員育成研修は、研修構想を再確認して実施してほしい。

教員の資質能力6層

教科指導・生徒指導の知識・技術

学級・学校経営の知識・技術

勤務園・校の問題解決と課題の達成能力

子ども・保護者・同僚との対人関係の能力（コミュニケーション力）

子ども観・教育観・授業観

自己成長に向けた探究心

現在、普段に実施されている教員研修は、～の内容であろう。は教員生活の長期にわたっての研修や体験の積み重ねで培われていくものである。

社会が変化し、保護者も子供も、教員自身も変わってきている現在、が極めて重要。問題が起きる場合、教員のこの面の力不足によることが多い。授業時に限らない、教員の言動力（受信力、発信力）対応力の向上も重視したい。

#### 【伝統・文化を継承・発展させる】

- ・グローバル化し、高度に情報化して価値観が混在している現代であるからこそ、自国の伝統・文化・精神を大事にした教育をすることが必要だと思う。また、自国の伝統や文化を大事にしてはじめて、他国の人々の心や文化を理解できる。いわば台東区教育思想と事業が、

「台東区基本構想」 「区民憲章」 「教育大綱」

- ┌ 「生涯学習推進指針」
- ├ 「学校教育ビジョン」 - 「下町台東の美しい心づくり」 - 「こころざし教育」
- └ 「スポーツ振興計画」

と体系化されて骨格がしっかりした感じがする。

- ・児童・生徒の伝統・文化の教育的な活動も、学校教職員や地域の人々の協力を得て、歴史探検隊、歴史検定、中学校立志式等々が実施され、幼児、小・中学生の各地域の祭りや時代祭への参加などもあり、生活観や気持ちに根付いて区の教育的な特色となりつつあるようだ。
- ・『歴史・文化検定』は、学校参加などもあり、参加人数が驚くほど伸びてい

る。関係者の熱意の成果である。学校教職員はもとより、青少年育成に携わる大人の皆さんにも気楽に参加してもらいたい気もする。テキストや試験問題など、楽しみながら学べる事業になるように、一層創意工夫を願いたい。

- ・ 児童・生徒の合唱、オーケストラや吹奏楽、大人の区民合唱祭、年末の第九合唱など、子どもから大人に至るまで台東区民全体の音楽文化は極めて高く、台東区美術展、台東区文化祭も毎年盛況である。
- ・ 『郷土資料の記録と整備』『文化財保存・活用』は、営々とした地道な事業であるが非常に貴重な文化度の高い仕事である。学校教育や区民の関心を引き寄せる方法も講じてほしい。
- ・ 台東区の文化施設・事業全体が、質量共に極めて高く、区の誇り得る大きな特色である。そんな学ぶ環境のいい面を児童生徒に認識させてほしい。学校教育に活用しないともったいない。工夫して教育課程に活用を位置づけてほしい。

#### 【健康的な生活の実現と生涯スポーツを实践する】

- ・ 環境的には恵まれない地域でありながら、健康・スポーツに関わる台東区の施設管理運営や事業の推進状況については、充実に向けて前向きに努めていることが理解できる。
- ・ 活力のある生活を営むための基盤となるのが健康な心身である。区民、児童・生徒の健康の維持・増進のために、今後も一層の施設や事業の充実が期待される。
- ・ 間近に東京オリンピック・パラリンピックを控え、「幼児から高齢者まで区民スポーツ人口のすそ野を拡げる」「パラリンピックへの理解と支援を拡げる」という意識も大事に事業を進めてほしい。
- ・ 青少年育成、区民の健康と活力増進に関して、各スポーツ団体の意義は大きく、活動も活発で関係者に感謝したい。今後も各競技団体の円滑な運営とともに、社会スポーツ競技団体間、及び学校体育と社会スポーツの調整・連携、相互支援などの工夫、活性化を期待したい。
- ・ 区民の健康的な生活の維持・増進のための普及・広報活動が重要。特に、医療、介護、子育て支援の第一次窓口（相談機関）の周知が大切と思われる。

有村 久春（東京聖栄大学教授）

【教員・保育士の資質・能力の向上と教員が子どもに向き合う環境づくりの推進】

- ・ 教員等の資質向上を図る本施策は、「教育は人なり」の思想からも教育課題の本質に関与する内容である。主な事業として挙げられた『スーパーティーチャーの育成』や『教員教育研究制度』『ちいさな芽実践推進訪問』『校務パソコン整備』などの着実な推進を今後も期待したい。これらの事業は教育環境のインフラ的な要素を含み、台東区の子供たちの学びを支えるものである。
- ・ その事業推進のプロセスにおいて、とりわけ教員個人の自己啓発が求められるだけに、事業の意図や方向性を教員等に明確に提示し、積極的に参画できる環境を整えたい。「教師は自ら学ぶ」ことを主たる職務とすることを自覚する必要がある。「教師の学びの中に、子供の成長がある」と言っても過ぎることではない。
- ・ 『スーパーティーチャー育成』には、各学校園におけるOJTの円滑な推進と学校力の向上が求められる。昨今よく耳にする「チーム学校」をより現実的に展開するエンジンとなることを期待したい。単に、SCやSSW等との協働態勢にとどまることなく、スーパーティーチャーを核としたチームがその学校園の特色を生かしたカタチでそのリーダー性が機能することを求めたい。
- ・ その豊かな営みには、チームとしてのヴィジョン（共有ヴィジョン）が存在する必要がある。このことが、学校園内の教育活動の活性化、教員個々の資質能力の向上、とりわけ若手教員の指導力・探究心の向上、そして台東区の子供たちの学力向上に資するものである。
- ・ この意味から、いま実施のコース（ICT・体育・理科）の窓口を多様化・拡大化することも考えたい。国語や数学等の学力アップを意図した「授業力アップコース」「アクティブラーニング実践コース」など、学びの本質や次代の教育課題を深く追究するスーパーティーチャーを育成したい。
- ・ なお、数値的な面で、各コースの受講者数が昨年度よりも減少傾向（5244）にあるが、内容・質的な充実の視点から数値の意味を分析・検討したい。

### 【自律的な学校園経営の実現】

- ・ 台東区は、子供たちや区民が「本物の博物学」を直接的に学べる地域環境を有している。都内随一の「学びのキャンパス」そのものが備わっている。各学校園がこの地域財産を積極的に活用し、子供たちの地域愛はもとより将来に向けた学びの欲求（探究心）を育むことを期待したい。実態としては執行状況の評価にあるように、「質・量ともに充実してきているが一部の学校園においては教育・保育活動の中にプランを取り入れていない」とされている。もったいない事態と考えたい。
- ・ 確かに各学校園・教委は、日々の教育活動（教育課程）を多忙な中に展開しているだけに、「子供たちへの台東区の学び」の提供がその密度を欠いている側面がみられることであろう。例えば、昨年度、教委の援助による『出前教育委員会』の事業が台風等の影響により急遽中止となることがあり1校のみの実施である。多くの学校園がスケジュールの都合上うまく予備日等を設定できにくい状況にあったのであろう。
- ・ この例に学べるように、不測の事態や多様な変化に柔軟に呼応できうる「ゆったりした空間」が自律的な学校園経営の実現には不可欠であると考えたい。ぜひとも、本区の学校教育ビジョンが目指す「まちを学びのキャンパスととらえ、世界に飛躍し未来を創る人材を養成する」とする基本理念を自律的な学校園経営のベースに考えることを求めたい。そこに、台東区の子供たちの個性と学びが、区内の専門性をもった人材がコラボすることになる。この具体化が学校園の自律性と子どもの豊かな精神性を育むものであると確信する。
- ・ 全体のプラン数について数値的な面をみると、前年比で31プラン増えている（53 → 84）。内容的にも、各学校園が自校園に合ったプランを選んで実施している状況がみえてきている。うれしく、喜ばしい。提携先としてあげられている国立科学博物館、東京国立博物館、国立西洋美術館、台東区芸術文化財団、恩賜上野動物園、東京文化会館、国際子ども図書館、東京都助産師会、大学などのフィールドは他の区市等ではなかなか触れられにくい実態にあらう。台東区の誇りと優位性を改めて自覚したい。
- ・ 今後も、実施したプラン例に学びつつさらに充実した学校園の経営に資することを期待したい。例にある「器楽コンサート、親子工作教室、つまみ細工を楽しむ」（園児向き）、「万華鏡のお話と制作、能楽体験、尺八体験、オペラ歌手がやってきた」（小学生向き）、「落語鑑賞と体験、日本料理と包丁、いのちの授業」（中学生向き）などの具体例の進化とさらなる創意工夫を願いたい。この努力が、台東区の伝統文化や技能を子供たちに伝え、教科書だけでは学べない貴重な体験として生きるものであると考える。

### 【伝統・文化を継承・発展させる】

- ・ 台東区の伝統・文化が継承され発展していくために、『台東区歴史・文化検定』の実施は、極めて有意義な事業の一つである。これからも、本事業を台東区の文化的事業の中心に据え、その発展的充実を図ることが期待できる。
- ・ その基本として、「台東区歴史・文化テキスト」を作成していることがその推進の具体化に資している。区内小中学生および教員等が活用できるように、約1,670部を作成した実績が本事業の実効性を高めている。また、区内小学校19校中12校の参加が1,598名の受検につながっている。多くの子供たちが台東区の歴史・文化に興味と関心を覚え、大いに郷土愛を実感しているであろうと思う。
- ・ さらに具体的な例として、社会科及び歴史の教科書で関連している部分を本テキストとの対応頁一覧で示していることも、日々の授業での積極的な活用に連関している。目に見える配慮として、認定証や認定カードの発行、参加賞の区指定生活文化財金太郎飴、表彰状などが事業の活性化に役立っている。検定実施日に受検できない子供たちのために学校の授業中に受検できるようにした実績も大いに評価したい。
- ・ この事業が、関連事業として位置づけられている『台東区美術展』や『ふれあいコンサート』『郷土資料の記録と整備』『文化財の保存・活用』『民話と伝承遊びの普及』などとも連動してより発展することを願っている。そのために、広報活動の充実を図り、区のホームページやCATVなどの広報媒体を利用した事業展開を工夫したい。
- ・ これからは、本事業が子供たちおよび区民にとってさらに魅力あるものになるために、区内の全小中学校での実施を検討し、施策の実効性を高めていきたい。そのための方策として、区内の教職員の専門性を有効に活用することや教員はもとより区民や保護者を対象とした研修会や区の文化・史跡等をめぐる体験学習の機会をもつようにしたい。
- ・ 来る2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた学習の機会にもなることと、台東区の「粋と文化」を世界に発信するベースになるものと期待できる。あえて言うならば、この小中学生用のテキストがさらに充実発展したカタチで出版され、区民をはじめとして多くの日本人、世界の人々が活用するならば「次代を先取りした文化施策」として意義ある事業として進展すると考える。

### 【健康的な生活の実現と生涯スポーツを实践する】

- ・ スポーツは健康の源であり、日々の生活を生きるエネルギーである。こころの安定と成長を促してもくれる。本事業が『スポーツひろば』として、区内の小中学校を開放して展開されていることを大切にしたい。区民に身近に・手軽に取り組めるツールになっていると思う。そこでは、幅広い年齢層の区民がスポーツを通して、自らの趣味や技能を生かし、多様な対人関係を培うことを可能にしている。
- ・ 専門の指導員のもと、バスケットボールやバレーボール、テニス、バドミントン、卓球、少林寺拳法など多くの種目が用意されていることがうれしいことである。その実際にあって、1回あたりの利用者数が15.7人であることも、実施されているスポーツがより楽しめる要件になっている証であると思う。
- ・ 利用者数もここ3年間増加傾向にあり(8,011人 8,195人 8,496人) その充実をみることができる。少子化・高齢化の時代であることを考えると、ある程度の顧客層が定着し、そこでの「楽しみ度」が深化している状況をみることができる。
- ・ また、スポーツ推進委員協議会がニュースポーツや軽運動などの教室を運営している事業がおもしろい。事業内容に創意工夫が感じられる。種目名のやさしいヨガやフラダンス、太極拳、吹き矢、ヒップホップ、親子ドッジビーなどは、区民が日々の人間関係をより一層深めるものになっている。
- ・ 初心者向けのスポーツ教室の充実もすばらしい。3年間の利用者数も着実に増加している(194人 307人 397人)。今後、この初心者の利用者が台東区のスポーツの指導員や子供たちのリーダーとして活躍することを期待したい。
- ・ 本事業にかかわらず、スポーツの充実には個々の利用者の前向きな意識とともに、施設設備の充実や用具の刷新が不可欠である。各講座受講者等の感想や意見等を聞く、またアンケートを行うなどして子供たちや区民の本音を把握した事業改善をためらわないでほしい。台東区の活性化やコミュニティづくりのためにも区民が利用しやすいスポーツひろばを望むところである。

## 平成26年度 教育委員会の活動状況

平成26年度の教育委員会の活動については、教育委員会定例会・臨時会、学校・園への行事等の出席、区内各種団体の行事等への出席及び視察・研修などの活動を行ないました。

### 1 教育委員会委員

(平成27年3月31日現在)

役職	氏名	委員任期
委員長	高森大乗	平成24年10月8日から 平成28年10月7日まで
委員長職務代理者	垣内恵美子	平成25年12月18日から 平成29年12月17日まで
委員	末廣照純	平成26年12月25日から 平成30年12月24日まで
委員	樋口清秀	平成23年10月8日から 平成27年10月7日まで
教育長	和田人志	平成24年10月8日から 平成28年10月7日まで

### 2 教育委員会の会議

教育委員会の会議は、毎月1回開催する定例会と、必要に応じて開催する臨時会があり、教育に関する様々な議案について検討し議決を行うとともに、重要事項について事務局より協議及び報告を受けています。

#### (1) 会議の回数

- ・ 定例会 12回
- ・ 臨時会 4回

#### (2) 議案審議等の付議状況

- ・ 議案審議 86件
- ・ 協議事項 82件
- ・ 報告事項 126件

( 3 ) 議案審議の状況等

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ・ 議会提出議案に対する意見       | 33件 |
| ・ 教育委員会規則及び規程の制定及び改廃 | 45件 |
| ・ 職員の人事に関すること        | 1件  |
| ・ 教科書の採択に関すること       | 2件  |
| ・ その他                | 5件  |

3 その他の教育委員会委員の主な活動

( 1 ) 区立小・中学校・幼稚園、こども園、保育園関係

卒業式、式典、運動会、陸上大会、各種学校行事等への出席

( 2 ) 区内各種団体等の行事関係

各種団体等が開催する大会、式典等への出席

( 3 ) 視察・研修等

平成26年度教育施策連絡会（東京都教育庁主催）

〔内 容〕

- ・ 平成26年度の教育行政について
- ・ 平成26年度主要施策の概要について

出前教育委員会

〔内 容〕

- ・ 教育委員が学校・園に出向き、施設状況や運営状況を直接、把握するとともに教育委員会の施策・考え方・取り組みについて教職員と意見交換を実施

- ・ 平成26年度は、上野中学校にて実施

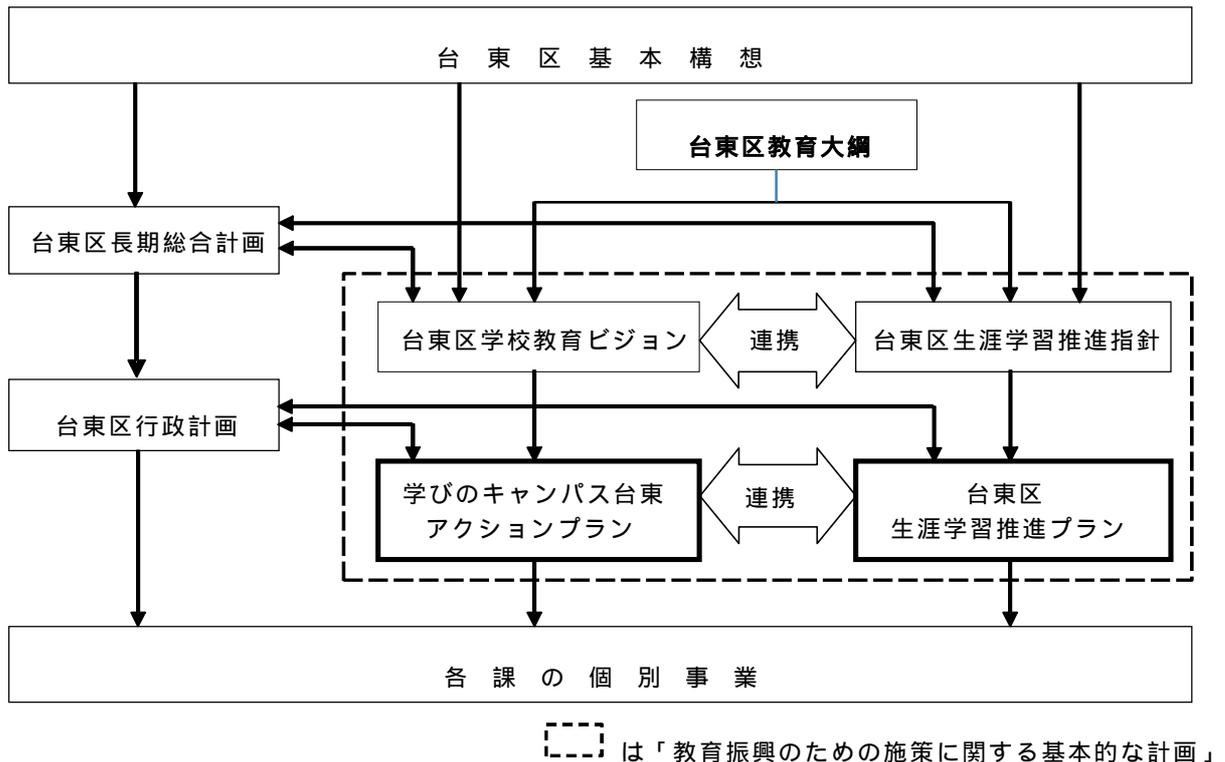
第2ブロック教育委員会協議会（台東区、北区、荒川区、文京区）

〔内 容〕

- ・ 各区教育委員会の重点事業等意見交換（荒川区にて開催）

## 参考資料

- 「学びのキャンパス台東アクションプラン」及び「生涯学習推進プラン」の位置づけ



「台東区学校教育ビジョン」、「台東区生涯学習推進指針」、「学びのキャンパス台東アクションプラン」、「台東区生涯学習推進プラン」は、教育基本法第17条第2項に基づいて策定する、台東区の「教育振興のための施策に関する基本的な計画」として位置づけられています。

## 台東区教育大綱

台東区は、上野、浅草、谷中、隅田川など歴史と伝統に恵まれた地域を擁し、情緒ある個性豊かな文化を育んできたまちです。日々のにぎわいある暮らしの中で、子供からお年寄りまで様々な世代が下町ならではの心意気と人情で支え合っています。

今、本区では、こうしたかけがえのない財産を活かし、「教育はひとづくり」の観点から、台東区のまち全体を人が成長するための環境「学びのキャンパス」としてとらえ、学校、家庭、地域の信頼と支え合いの中で、将来の台東区を担うひとづくりを推進しています。

今後も、この施策をさらに充実させ、地域に支えられたひとづくりが、未来の台東区を築く人材を育むとともに、さらに住みよい躍進するまちづくりへと結びつくよう、次の項目に取り組みます。

### 温故創新とこころざし

台東区の歴史、文化を尊重し、伝統・技能を継承、発展させるとともに、こころざしを立て、新たな地域や社会を創造するひとづくりを進めます。

### 自己実現と支え合い

区民が生涯を通じて自己実現に努め、自他を尊重し共に支え合い、変化が大きい社会を生き抜く力を培えるよう支援します。

### 教育に対する信頼と尊敬

教育に携わる教師・保育士の資質向上をたゆまず図り、子供たちや保護者、地域から、より信頼され尊敬される人材を育成します。

### 心の豊かさと学びの環境づくり

区民一人ひとりが心豊かに生涯を送れるよう、いつでも、どこでも、誰もが、ライフステージに応じて学べる環境を整備します。

### 絆と地域力

家庭や地域社会の絆を大切にし、活力あるコミュニティの形成に努め、地域力を高めます。

平成27年5月27日

台東区長 服部 征夫

### 【教育目標】

台東区教育委員会は、子どもたちが心身ともに健康で、人権尊重の精神を基調としつつ人間性豊かに21世紀を創造する人材に成長することを願い、

**互いの人格を尊重し、思いやりの心と規範意識をもつ人  
個性や豊かな創造力、健やかな体をもち、自ら学び、考え、行動する人  
台東区の歴史・文化に誇りをもち、地域社会を愛し、発展に貢献できる人**

の育成に向けた教育を充実する。

また、だれもが生涯にわたり自己実現に生きがいを見出し、学びを継続し、心豊かに人生を送ることのできる生涯学習社会の実現を図る。

そして、台東区基本構想に掲げる「にぎわい いきいき したまち 台東」の実現を目指し、区民憲章を実践し、にぎわいと活力のある地域社会の形成と個性豊かな下町文化の継承と発展に努める。

平成 2 7 年度  
教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価  
報 告 書  
(平成 2 6 年度対象)

編集・発行 台東区教育委員会  
〒110-8615 東京都台東区東上野 4 - 5 - 6  
電話 03-5246-1402 / FAX 03-5246-1409  
メールアドレス : ed-syomu.1qt@city.taito.tokyo.jp